



# 虹の会 10周年記念号

## その2

### 理事・ボランティアから

虹の家 10周年、おめでとうございます。  
これも理事長、施設長はじめ職員の皆様の地道な心温まる支援の積み重ねの結果だと思い、心から敬意を表する次第です。これからますます小規模多機能への期待が高まってくることでしょう。そこに虹の家らしさを存分に盛り込み、地域の皆様のために尽力して下さいますことを願っております。

遠くの親戚よりも近くの他人とことわざがあるが、家の中では体調がすぐれない時でも虹の家の玄関に入ったとたんに、腰痛、腹痛が落ちつくのは、父、母、兄、姉のような存在感の利用者の方々から、逆パワーを戴いているからだろうか。

いつの日か、この家に厄介になる日も遠くはないでしょう。おはようさん、こんにちわ又あしたねえーと、末永く多くの人達と交流して、心の宝を増やしていきたいです。

ここ新木が私の終いの栖<sup>ゆう</sup>(すみか)になると思います。私はこの住みなれたところ、家族、友達隣人の居る所に自分の意識があるうちは、迷惑をかけながらも住みたい。心安らかに生きたいと願っています。通いの人達との手仕事、「たまりんば」の集いと変わってきていますが、自分を含めて老いていくのを見つつ、みんなと係っている事が生きる希望になっていると、感じる、このごろです。

「おはようございます」「さようなら」のご利用者さんの笑顔に支えられ、10年後も笑顔で地域の方々に必要とされ、信頼される虹の家であってほしいなーと願っています。それにつけても職員の若さの息吹が感じられ、とてもうれしい限りです。みんなで上手に育てていきましょう！



## 職員から

## ～こんな介護をしたい～



まだ介護保険制度がなかった時、寝たきりの祖父を介護した母の姿がこの仕事に就いた原点でした。在宅支援の仕事に携わり色々経験する中で、今は孤軍奮闘しなくてもよい時代になったと実感します。小規模が出来、地域のネットワークも出来て介護する自分も日々進化しなくてはと思います。 日向 直子 (介護歴6年)

食事の時“おいしいねえ”と隣の方とにこやかな会話、入浴の日“極楽極楽と喜ぶあの笑顔、自然で当たり前のような願い、静かな日常が続けられる事、介護という世界に入ってそれがどんなに幸せであるかという事を知りました。もっともっと皆様の笑顔に出会いたい！

森戸 ふみ (介護歴1年)

介護技術や認知症の知識等を身につけるのはもちろんですが、利用者さんの気持ちに寄り添い、いつも隣で笑い合える職員でありたいと願っています。

これからも「向上心」と「遊び心」を忘れずに働きたいと思います。 横山 耕太 (介護歴1年)

仕事をしていて良かったことは、利用者さんの言葉でした。私が出勤の時に「あなたの顔を見れて良かった。」と言ってくれたことです。なかなか利用者さんにお会い出来なくて、久しぶりにお会いした時にそのような言葉をかけられると、この仕事をしていて良かったと思いました。 矢野 明日香 (介護歴1年)